取扱説明書

EF5500iSDE

ご使用前に、かならず取扱説明書・本体ラベルを
お読みになり、内容を理解してからお使いください。

331269
7CK-28199-J1

おねがい

ヤマハ商品をお買上げいただき、誠にありがとうございます。
本書には、商品の安全性に関する情報と商品の正しい取り扱い方法と簡単な点検・調整について説明してあります。
万一、取り扱いを誤まると重大な事故や故障の原因となります。
あなた自身の安全と環境や住民の方との調和のために、また商品の性能を十分に発揮させるために、商品の取り扱いを十分ご存じの方も、この商品独自の装備・取り扱いがありますので、ご使用前に必ず本書を最後までお読みください。なおご使用時には本書を携帯し、安全に商品をご使用くださいますようお願い申し上げます。

＊本書では正しい取り扱いおよび点検・調整に関する必要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠	安全に係る注意情報を意味しています。
▲警　告	取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してあります。
▲注　意	取り扱いを誤った場合、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。
要　点	正しい操作の仕方や点検整備上のポイントを示してあります。

＊仕様変更などにより、本書のイラストや内容が一部実機と異なる場合がありますのでご了承ください。
＊保証書はよくお読みいただき裏面のお買い上げ日、販売店の記入をご確認ください。
＊本書は大切に保管し、わからないことや不具合が生じたときにお読みください。なお本機の転売や譲渡等をされる場合は必ず添付してください。

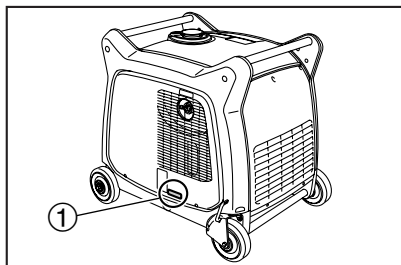
目次

製造番号

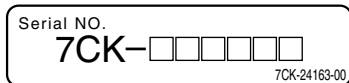
● **製造番号**

商品名、製造番号等は問い合わせや部品を注文するときのために記入してください。

商品名、製造番号は右図の製造番号ラベル①をご参照ください。

商品名、製造番号は他の資料にも記録しておいてください。

商　品　名	
製 造 番 号	
購入年月日	年　　月　　日
	電話

①製造番号ラベル

Serial NO.
7CK−□□□□□□
7CK-24163-00

お客様ご相談窓口のご案内

お買い上げいただきました商品についてのお問い合わせ・ご相談は下記の「お客様相談窓口」へお願いいたします。

ヤマハ発動機株式会社
お客様相談室

〒438-8501 静岡県磐田市新貝2500
0120-090-819

オープン時間　月曜～金曜
（祝日等、弊社所定の休日を除く）
9：00～12：00　13：00～17：00

お問い合わせの際、お客様へ確実に迅速に対応させていただくため、あらかじめ下記の事項をご確認の上、ご相談ください。

①モデル名
②製造番号
③ご購入年月日
④ご購入先

ヤマハ発電機をよりご理解いただくためにホームページもご参照ください。
ヤマハインターネットホームページ
http://www.ympc.co.jp/generator

安全にお使いいただくために　必ずお守りください。

運転、保守、点検の前に必ずこの取扱説明書とその付属書類、および商品本体に貼付されているラベル全てを熟読し正しくご使用ください。商品の知識、安全の情報そして注意事項の全てに習熟してからご使用ください。

⚠警　告（行為を禁止する警告文）

- 警告ラベルを汚したり、はがしたりしないでください。
- 排気ガス中毒のおそれあり、排気ガスがこもる場所で使用しないでください。排気ガスは一酸化炭素など有害成分を含んでいますので室内、倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク、マンホールなど換気の悪い場所や建物や遮へい物で風通しの悪い場所等の排気ガスがこもる場所で使用しないでください。
- 商品の周囲を囲ったり、箱をかぶせて使用しないでください。
- 火傷のおそれあり、使用中や使用直後はマフラー部が熱いのでマフラーやマフラー周辺のプロテクタには手足を直接触れないでください。
- 火災のおそれあり、給油中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。
- 感電、火災のおそれあり、電力会社の電気配線に接続しないでください。接続しますと電気器具や商品の故障、または火災や電気工事関係者の感電事故の原因となります。
- 感電のおそれあり、ぬれた手で商品を操作しないでください。
- 感電のおそれあり、コンセントにピンや針金などの金属物を差し込まないでください。
- 感電やけがのおそれあり、運転中は点検整備を行なわないでください。
- 感電やけがのおそれあり、改造したり、部品を取り外したまま使用しないでください。

⚠警　告（行為を指示する警告文）

- 商品を他人に貸すときは、必ず取扱説明書もいっしょに貸してください。
- 排気ガス中毒や火災のおそれあり、排気口を建物や設備から１メートル以上離して使用してください。
- 火災のおそれあり、燃料の給油はエンジンを停止してから行なってください。燃料のガソリンは、高い引火性と爆発性がありますので、取り扱いは十分注意してください。特にエンジン始動前には、ガソリンの漏れがないことを確認してください。
- 火災のおそれあり、給油時にこぼれた燃料は布きれなどできれいにふき取ってください。
- 燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は、石鹸と水でただちに洗い、衣類は取り替えてください。
- 燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、または燃料が目に入ったりした場合には、ただちに医師の診察を受けてください。

⚠注 意（行為を禁止する注意文）

- けがのおそれあり、傾斜させて使用しないでください。
- けがのおそれあり、運転中は移動させないでください。
- けがのおそれあり、商品の回転部に棒や針金を入れないでください。
- 感電のおそれあり、運転中はスパークプラグに触らないでください。
- 感電のおそれあり、雨や雪の中で使用しないでください。
- 感電、けがのおそれあり、子供に使用させないでください。
- 感電、けがのおそれあり、エンジンを始動する前に電気器具を接続しないでください。
- 火災のおそれあり、商品の周囲や下に危険物（油脂類、セルロイド、火薬など）や燃えやすい物（枯れ草、わらくず、紙くず、木くずなどの可燃物）を置かないでください。
- 火災のおそれあり、定格出力を超えた過負荷で使用しないでください。
- 火災のおそれあり、発電機にカバーを掛ける場合は、エンジン部、マフラー部が充分に冷えてから行なってください。

⚠注 意（行為を指示する注意文）

- 火災のおそれあり、燃料の種類と規定容量を守って使用してください。
- 商品を自動車などで運搬する場合には、倒れないようにしっかり固定してください。
- 毎回使用前に行なう始業点検や定期点検は必ず実施してください。
- 使用中に音、臭気、振動などの異状を感じたら、直ちにエンジンを停止してヤマハ発電機販売売店またはサービス店の点検を受けてください。

環境への配慮

将来、廃棄される場合および廃油等の廃棄処理をされるときは、環境保護のためお買い上げのヤマハ発電機販売売店またはサービス店にご相談ください。

重要ラベル

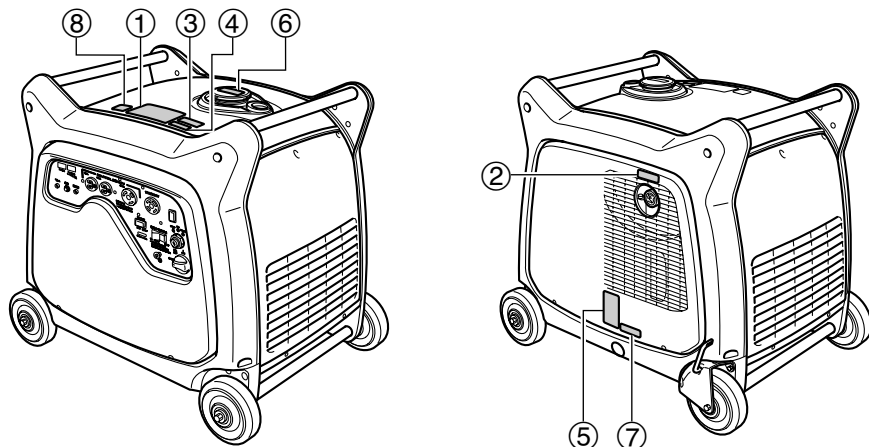
商品本体に貼付されているラベルすべてを熟読し正しくご使用ください。

要　点

ラベルは常に手入れを行ない、破れたりはがれたりした場合はヤマハ発電機販売店またはサービス店に相談して、ただちに新しいものと交換してください。

警　告 ラベル

①

▲ 警　告

火災や爆発のおそれあり
- 給油中はエンジン停止のこと。
- ガソリン給油口に火気を近づけないこと。
- こぼれたガソリンは完全に拭き取ること。
- 燃料は赤レベル(規定量)以上入れないこと。
- 可燃物のそばで使用しないこと。
- 建物·設備に排気を向けないこと。

排気ガス中毒のおそれあり
- 屋内など換気の悪い場所で使用しないこと。
- 人·建物·設備に排気を向けないこと。

感電や火災のおそれあり
- 電力会社からの電気配線に接続しないこと。

感電のおそれあり
- 雨や雪の中で使用しないこと。
- コンセントに濡れた手でさわらないこと。

▲ 注　意

ご使用前に必ず取扱説明書をよく読んで安全にお使いください。

7CF-24162-00

②

警　告

やけどのおそれあり、排気口
にさわらないこと。　高温注意

7VV-28176-00

⚠注　意 ラベル

③

⚠注　意

感電のおそれあり、
スパークプラグに
さわらないこと。　高電圧注意

7VV-2415A-00

④

⚠ **注 意**

スパークプラグは必ず指定のものを使用してください。
指定プラグ：BPR4ES(NGK)

その他ラベル

⑤オイル

⑥周波数切替スイッチ

この発電機は*50Hz／60Hz*切替式です。
工場出荷時は*50Hz*にセットされています。
***60Hz*の地域の方は、取扱説明書を参照いただき、*60Hz*にセットしてください。**

⑦製造番号ラベル（Ｐ１参照）

⑧「LEMA」ラベル
（「排出ガス」自主規制適合マーク）

JT0-2111F-00

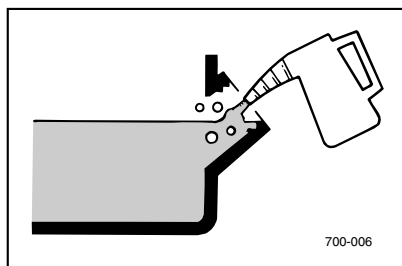
各部の名称

①ハンドル
②燃料タンクキャップ
③燃料残量計
④フロントカバー
⑤マフラー
⑥キャスターロックレバー
⑦ゴムカバー
⑧ゴムプラグ
⑨リアカバー
⑩アワーメーター
⑪パワーメーター
⑫交流コンセント（100V／15A）
⑬交流コンセント（100V／30A）
⑭交流コンセント（100／200V）
⑮エンジンスイッチ
⑯燃料コック
⑰電圧選択スイッチ
⑱アース端子
⑲周波数切替スイッチ
⑳エコノミーアイドルスイッチ
㉑過負荷警告ランプ（赤色）
㉒出力ランプ（緑色）
㉓オイル警告ランプ（赤色）
㉔スパークプラグ／スパークプラグキャップ
㉕キャブレタ
㉖ドレンスクリュ
㉗エアクリーナ
㉘ヒューズ
㉙バッテリ
㉚オイルドレンボルト
㉛オイルプラグキャップ（オイル注入口）
㉜エンジンスイッチキー
㉝スパークプラグレンチ

⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭
HOUR
POWER
55A TOTAL 交流100V
15A
15A
30A
100/200V
交流出力の
リセットはエンジンを
一旦停止して下さい
出力
過負荷
ECON.SW
ON
OFF
50Hz 60Hz
運転中切替禁止
100/200V
100V
●100Vに切替えた時は
100V/200V一系出力用
コンセントは使用できません
STOP
ON
START
ON
OFF
⑮
⑯
㉓ ㉒ ㉑ ⑳ ⑲ ⑱ ⑰
フロントカバー側内部図
㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘
リアカバー側内部図
㉙ ㉚ ㉛
㉜
YAMAHA
YAMAHA
㉝

各部の取り扱い

- **オイル警告装置**

  エンジンオイル量が少なくなって潤滑不足になる前に、自動的にエンジンを停止させます。
  エンジンオイル量が少ない状態でエンジンが停止したときは、エンジンスイッチキーをSTART（始動）にしてもエンジンは始動しません。エンジンオイル量を確認しエンジンオイルを注入口の口元まで給油します。

注　意

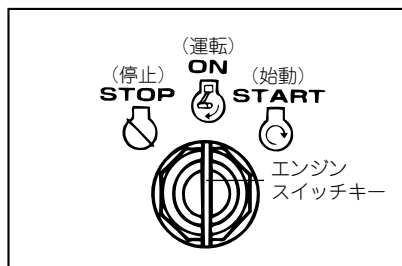
エンジンオイルを規定量以上に給油しないでください。
エンジン不調になるおそれがあります。

要　　点

- エンジンオイルの給油は発電機本体を水平状態で行なってください。
- こぼれたエンジンオイルは必ずふき取ってください。

- **エンジンスイッチ**

  点火系統を制御しエンジンの始動、停止を行ないます。

STOP（停止）	エンジンの停止および保管時の位置です。 エンジンスイッチキーを抜く事ができます。
ON（運転）	エンジンの運転時の位置です。
START（始動）	セルモータが回転し、エンジンが始動します。

⚠注　意

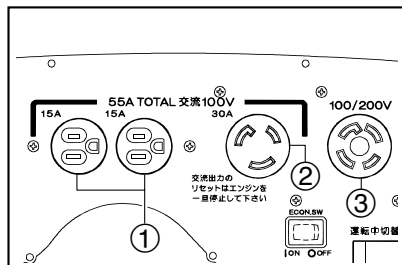
- **セルモータを連続して 5 秒以上回転させないでください。消費電力が多いためバッテリ上がりの原因となります。**
- **使用しないときは、エンジンスイッチキーをSTOP（停止）の位置にしキーを抜いてください。**

要　　点

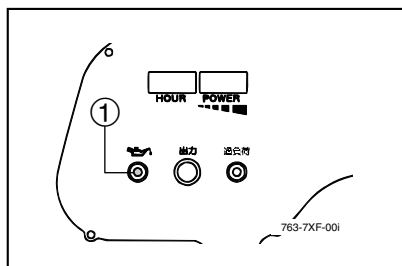
START（始動）の位置でエンジンがかかったらエンジンスイッチキーをON（運転）の位置に戻してください。

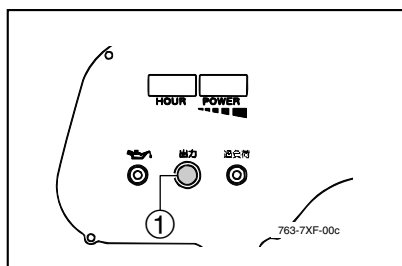
- **交流コンセント**

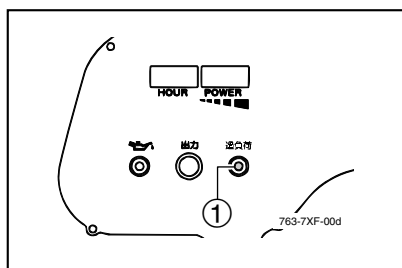
  交流（AC）の単相100V,15A①／単相100V,30A②／単相100／200V③を取り出すことができます。

  取り出し方は、「正しい運転操作」の「●交流電源の取り出し方」（P21）を参照してください。

各部の取り扱い（つづき）

● オイル警告ランプ（赤色）

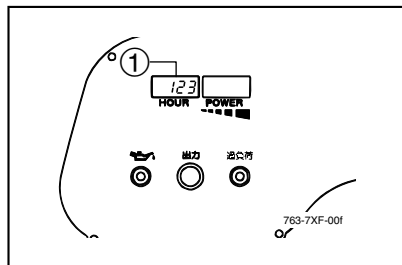
オイル警告ランプ①は運転中にエンジンオイル量が規定以下になると点灯し、自動的にエンジンを停止させます。また、始動時にエンジンオイル量が規定以下になっているとオイル警告ランプ（赤色）①が点灯し、エンジンは始動しません。

● 出力ランプ（緑色）

出力ランプ①はエンジンを始動し電気が発電されると点灯します。

● 過負荷警告ランプ（赤色）

過負荷警告ランプ（赤色）①は、接続された電気機器に定格出力を超える電気が供給されたとき、コントロールユニットがオーバーヒートしたとき、交流コンセントから定格電圧を超える電圧が出力されたときに点灯します。発電機は電気の供給を遮断しますがエンジンは停止しません。

要　点

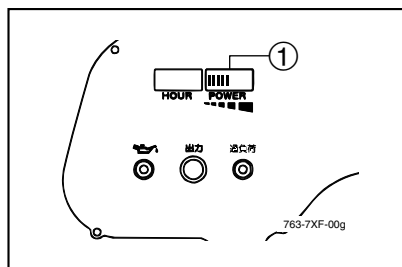
発電を再開する場合は一度エンジンを停止し、再度エンジンを始動してください。なお、過負荷警告ランプ（赤色）は自動的に消灯します。

● **アワーメーター**

アワーメーター①は発電機の運転時間を積算し、表示します。

● **パワーメーター**

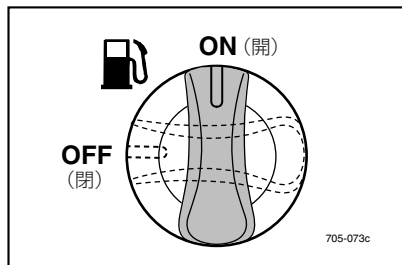
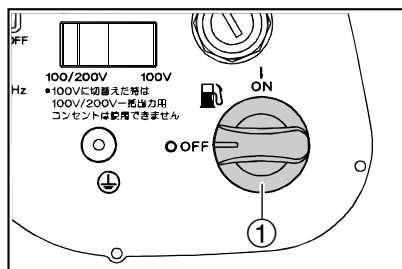
パワーメーター①はセグメントの数で発電機の使用電力量を表示します。
パワーメーターの表示窓にセグメントが表示されているときは正常に電力が出力されています。

要　点

セグメントの表示数が10になったとき、発電機は定格出力の上限に達しています。

● **燃料コック**

燃料コック①は燃料の流れを制御します。

ON（開）—— 燃料は流れます。
始動および運転時のコックの位置です。

OFF（閉）—— 燃料は流れません。
停止および保管時のコックの位置です。

各部の取り扱い（つづき）

● **周波数切替スイッチ**

周波数切替スイッチ①は利用する器具の周波数に合わせて周波数を50Hzか60Hzのいずれかに切替えるスイッチです。

60Hz仕様の電気器具を接続するときは、周波数切替スイッチの60Hz側②を押してください。

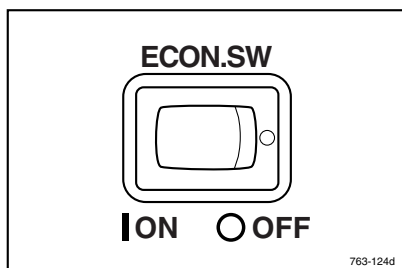
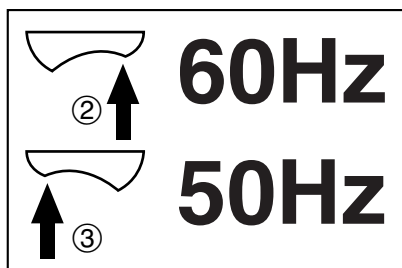
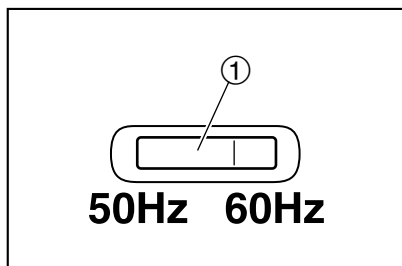
また、50Hz仕様の電気器具を接続するときは、周波数切替スイッチの50Hz側③を押してください。

要　　点

- ご購入時には、周波数切替スイッチは50Hzにセットされています。
- 周波数の切替はエンジンが停止中に行なってください。
- 電気器具の周波数が不明の場合は、電気器具会社にご相談ください。

● **エコノミーアイドルスイッチ**

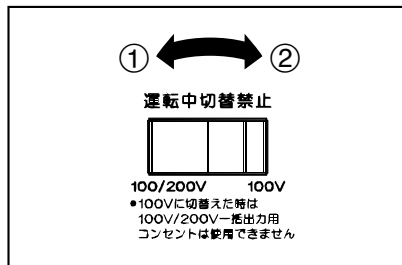
ON（作動中）　エコノミーアイドル装置が作動します。電気機器を運転すると、自動的にエンジンは負荷の大きさに応じた回転となり、運転しないときは自動的に低速回転になります。

OFF（作動中）　エコノミーアイドル装置が解除されます。電気機器の使用の有無にかかわらずエンジン回転は定格回転で運転します。

● 電圧選択スイッチ

⚠注　意

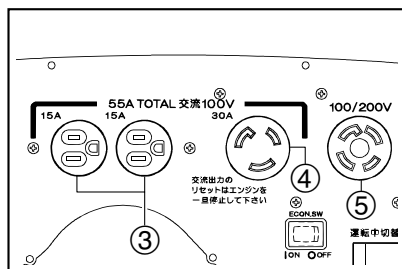
エンジン運転中は電圧選択スイッチを操作しないでください。

①100／200V
電圧選択スイッチを100／200V①へ押すと交流（AC）100Vと200Vの電気を供給します。

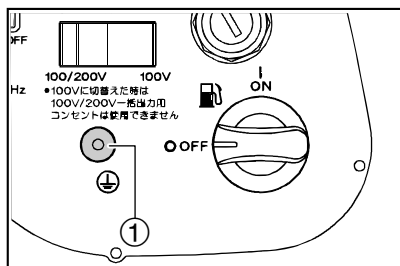
②100V
電圧選択スイッチを100V②へ押すと交流（AC）100Vの電気を供給します。

要　　点

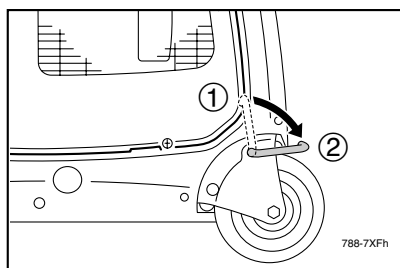
● 電圧選択スイッチを100／200V①の位置にして使用した場合、100Ｖのコンセントから供給される電流は、200Vのコンセントの電流使用量に応じて制限されます。
コンセント③または④のどちらかとコンセント⑤を同時に使用した場合、供給される電流の合計は最大27.5Aとなります。

例：200Vのコンセント⑤から10Aの電流が供給された場合、100Vのコンセント③、④両方からそれぞれ17.5Aの電流を使用することができます。
合計の出力電流が27.5Aを超えた場合は、過負荷警告ランプが点灯し、発電を停止します。このときパワーメーターのセグメント表示数が10に達していない場合があります。

● 電源選択スイッチを100Ｖ②の位置にして使用した場合、100Vのコンセント③および④からは、合計で定格出力の55.0Aまで電流を取出すことができます。

各部の取り扱い（つづき）

● **アース端子**

感電防止のアース線を取り付ける端子です。
アース端子①から大地にアースしてください。
使用器具をアースしたときは、発電機も必ずアースしてください。

● **キャスターロックレバー**

発電機本体が動かないように固定します。
①解除
②固定

● **携帯工具**

発電機に携帯工具が同梱されています。点検・調整の際にご使用ください。

はじめてお使いになる前に

● **燃料（自動車用レギュラーガソリン）の給油**

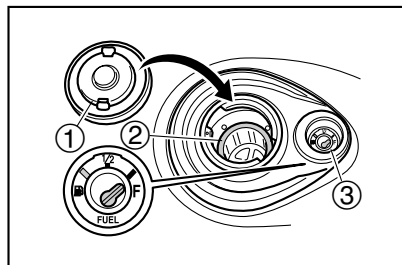
燃料タンクキャップ①を外し、燃料（自動車用レギュラーガソリン）を赤レベル②まで給油します。

燃料タンク内の燃料の残量は燃料残量計③により確認できます。

燃料タンク容量

17.0L（赤レベルまで）

使用燃料

自動車用レギュラーガソリン

⚠警　告

燃料のガソリンは高い引火性と爆発力がありますので、次の事項を必ずお守りください。

- **給油は、換気の良い場所でエンジンを停止してから行なってください。**
- **給油中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。また給油ノズルを給油口に当てるなどして静電気が発生しないように注意して行なってください。**
- **燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、または燃料が目に入ったりした場合は、ただちに医師の診断を受けてください。また燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は石鹸と水でただちに洗い、衣類は取り替えてください。**
- **燃料タンクキャップは確実に締めてください。**

⚠注　意

- **燃料の給油時、燃料タンク内に水・雪・氷・ゴミが入らないように注意してください。またこぼれたときは、ただちに布きれ等で完全にふきとってください。**
- **燃料は規定量以上（ストレーナの赤レベル以上）給油しないでください。**

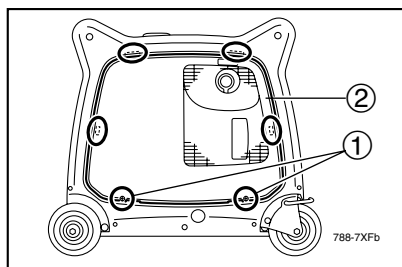
要　点

- 燃料はゆっくりと給油してください。
- 燃料は全部なくなる前に、できるだけ早目に補給してください。

- **エンジンオイルの給油**

購入後は、エンジンオイルを規定量給油してください。

1. ボルト①を取り外します。
2. リアカバー②の指示部を外側に引いて、リアカバーを取り外します。

要　点

リアカバーは図で示されている爪部によって固定されています。

3. オイルプラグキャップ③を外し、エンジンオイルを注入口の口元まで給油します。

オイル量

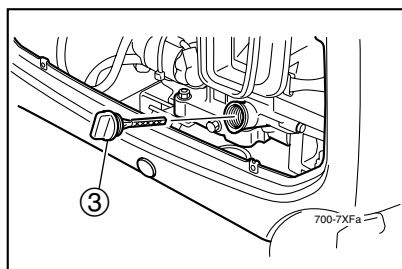
1.3L

使用オイル

4サイクルガソリンエンジンオイル

API分類SE級以上

SAE 10W-30または10W-40

（推奨オイル：ヤマハエフェロベーシック）

⚠注　意

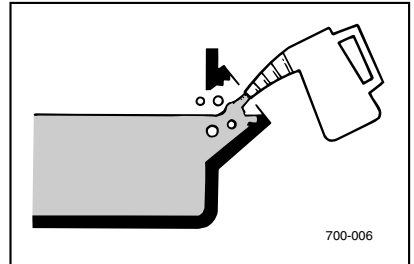
- **工場出荷時にはエンジンオイルが給油されていませんので給油してください。**
- **エンジンオイルを規定量以上に給油しないでください。**
  エンジン不調になるおそれがあります。

要　　点

給油の仕方は「エンジンオイルの交換」（P32）も参照してください。

（P32）

要　　点

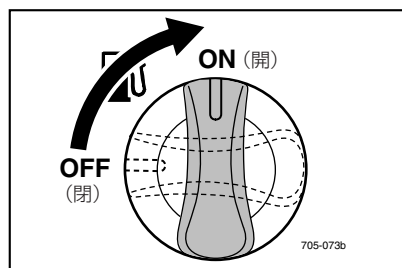
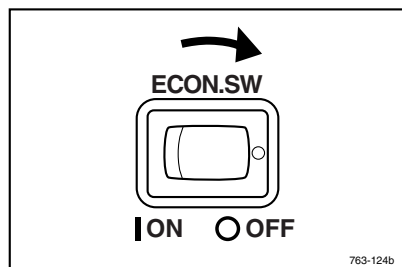
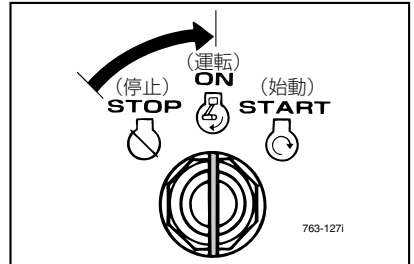
- エンジンオイルの給油は発電機本体を水平状態で行なってください。
- こぼれたエンジンオイルは必ずふきとってください。

正しい運転操作

● エンジンの始動

⚠警　告

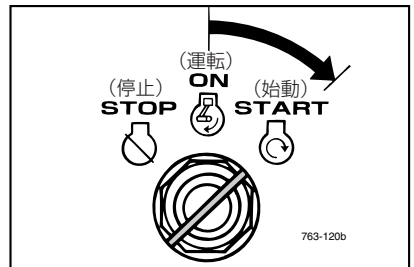
- 換気や風通しが不十分で排気ガスがこもる場所ではエンジンを始動しないでください。
- エンジンを始動する前に電気器具を接続しないでください。

1. 燃料（自動車用レギュラーガソリン）の量を点検します。

2. 燃料コックをON（開）にします。

3. エコノミーアイドルスイッチをOFF（解除）にします。

4. エンジンスイッチキーをON（運転）の位置にします。

5. エンジンスイッチキーをSTART（始動）の位置にして、エンジンを始動させます。

⚠注　意

- **セルモータを連続して5秒以上回転させないでください。消費電力が多いためバッテリ上がりの原因となります。**
- **使用しないときは、エンジンスイッチキーをSTOP（停止）の位置にしキーを抜いてください。**

要　　点

START（始動）の位置でエンジンがかかったらエンジンスイッチキーをON（運転）の位置に戻してください。

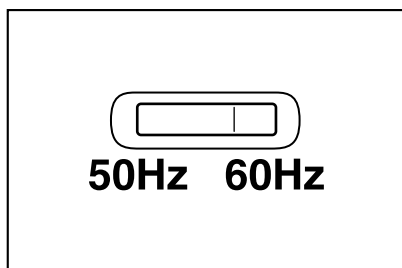
6. しばらく暖気運転します。

正しい運転操作（つづき）

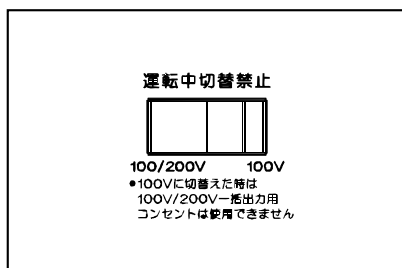
● 交流電源の取り出し方

⚠注　意

- **発電機は接続された電気器具の負荷の変化に合わせて電圧が変化しますので電圧変化に敏感な電気器具は使用しないでください。**
- **接続の可否が不明確な場合は電気器具会社にご相談ください。**

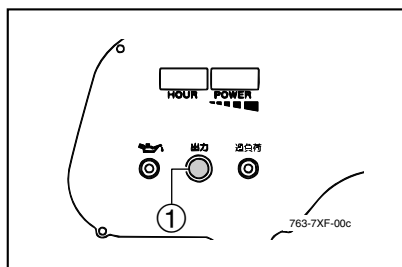
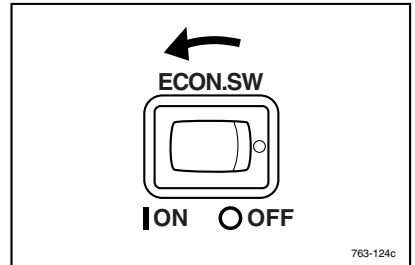
1. 周波数切替スイッチを使用する電気器具の周波数に合わせます。

2. 電圧選択スイッチを使いたいコンセントに応じて切り替えます。

⚠注　意

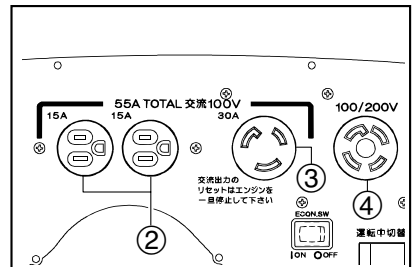
エンジン運転中は電圧選択スイッチを操作しないでください。

3. エンジンを始動します。

要　　点

スロットルレバーはありません。この状態で定格出力が得られます。

4. 出力ランプ①が点灯していることを確認します。

5. エコノミーアイドルスイッチをON（作動中）にします。

6. 電気器具のプラグを電圧選択スイッチで選択した交流コンセント②、③もしくは④に差し込みます。

要　　点

電気器具のスイッチがOFF（切）になっていることを必ず確認してから差し込んでください。

交流コンセント②には単相100Vで合計消費電流15A以下の電気器具のプラグを差し込みます。

交流コンセント③には単相100Vで合計消費電流30A以下の電気器具のプラグを差し込みます。

（参考）

交流コンセント③用プラグ

- パナソニック電工（株）製　WF8330
- 明工社製　MH2578

要　　点

交流コンセント②と③を同時に使用する場合は、最大55Aの電流まで使用することができます。

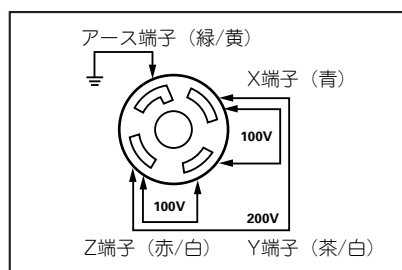
正しい運転操作（つづき）

交流コンセント④には単相100Vで消費電流55A以下、もしくは単相200Vで消費電流27.5A以下を取り出すことができます。
単相100Vは2経路取り出すことができますが、1経路あたり30A以下、2経路合計で55Aまでです。
（参考）
交流コンセント④用プラグ
- パナソニック電工（株）製　WF8430
- 明工社製　MH2587

⚠注　意

単相200VはX・Z間に接続してください。

要　　点

- 単相200Vの３線式はX.Y.Z端子と、４線式はX.Y.Z.⏚（アース）と接続してください。
- 交流電源回路図は「交流電源回路図」（P53）を参照してください。
- ４ピンコンセントからは100Vと200Vの電圧両方を取り出すことができます。
- プラグ側の配線には専門の知識が必要ですので、使用する場合は専門の電気業者に相談してください。

● **交流電源の使用可能範囲**

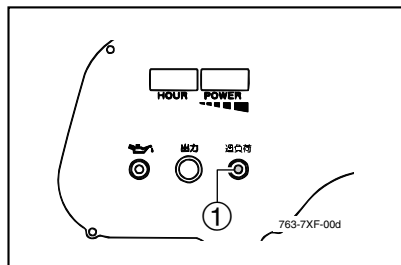
交流電源の使用はおおむね次の電気器具の取り出し可能範囲まで使用できます。使用する電気器具の消費電力（W）をお確かめの上ご使用ください。

電気器具	取り出し可能範囲		備　考
	EF5500iSDE		
	50Hz／60Hz	50Hz／60Hz	
照明・電熱器・ラジオ・テレビ・ステレオなど	100V 5500Wまで	200V 5500Wまで	力率＝1
電動工具類	100V 4400W程度まで	200V 4400W程度まで	力率＝0.8～0.95
汎用モータ類	100V 1870W程度まで	200V 1870W程度まで	力率＝0.4～0.75

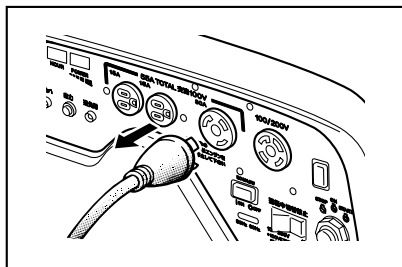
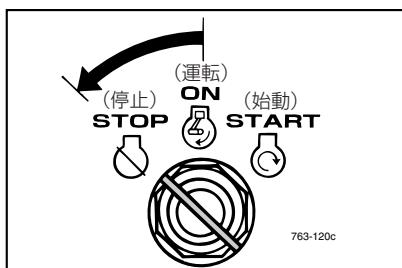
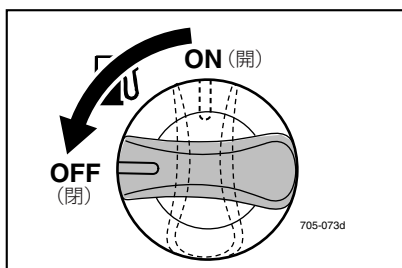
⚠注　意

- **電気器具の合計負荷が発電機の取り出し可能範囲を超えた過負荷で使用しないでください。発電機損傷の原因となります。**
- **精密機器・電子制御機器・パソコン・電子計算機・マイコン付機器および充電器類への使用は、発電機のエンジンノイズ（原動機雑音）の影響を受けない距離を確保してください。また、近くにある他の電気製品がエンジンノイズ（原動機雑音）に影響されないことを確認してください。**
- **医療機器への使用は、事前に医療機器会社・医師・病院等に確認のうえご使用ください。**
- **電気工具類・汎用モーター類の一部には取り出し可能範囲が上記表内の数値内でも起動電流が大きく使用できないことがあります。この場合は電気器具会社にご相談ください。**

要　　点

- 取り出し可能範囲を超えた場合、また電気器具に異状があった場合は、電気の供給が遮断されます。
- 過負荷警告ランプ（赤色）①は、接続された電気機器に定格出力を超える電気が供給されたとき、コントロールユニットがオーバーヒートしたとき、交流コンセントから定格電圧を超える電圧が出力されたときに点灯します。

正しい運転操作（つづき）

● **エンジンの停止**

1. 電気器具のスイッチをOFF（切）にします。
2. 電気器具のプラグをコンセントから抜きます。

3. エンジンスイッチキーをSTOP（停止）の位置にしてエンジンを停止します。

4. 燃料コックをOFF（閉）にします。

点検

お客様の安全と、発電機の故障と事故を未然に防ぐために実施してください。

警　告

- **エンジン運転中および停止直後は、エンジン本体、マフラー周辺のプロテクタやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。手足で直接触れないでください。
火傷にご注意ください。**
- **排気ガスは、一酸化炭素など有害な成分を含んでいます。換気の悪い場所や、風通しの悪い場所でエンジンを始動しての点検はしないでください。**
- **重大な事故・故障の原因になりますので始業点検・定期点検を必ず実施してください。**
- **異状が認められた場合は、ご使用のかたご自身またはヤマハ発電機販売店またはサービス店で必ず整備を行なってください。**

- 始業点検

  お客様が発電機をご使用する前に点検を行なってください。

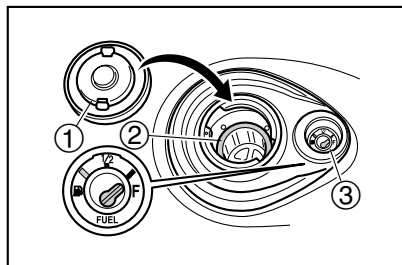
  点検箇所に異状がある場合は、ヤマハ発電機販売店またはサービス店で点検・整備をお受けください。

- 定期点検

  お客様のお申しつけにより、ヤマハ発電機販売店またはサービス店が実施します。お客様の責任で必ず点検を受けてください。

- **燃料（自動車用レギュラーガソリン）の点検**

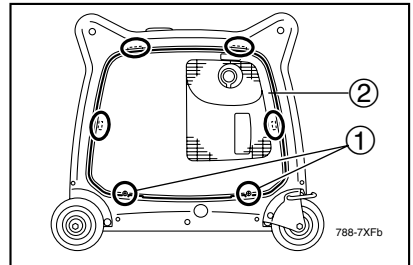
  燃料タンクキャップ①を外して、燃料（自動車用レギュラーガソリン）の残量を点検します。
  燃料タンク内の燃料の残量は燃料残量計③によっても確認できます。
  燃料タンク容量
  　17.0L（赤レベル②まで）
  使用燃料
  　自動車用レギュラーガソリン

要　　点

- 燃料はゆっくりと給油してください。
- 燃料は全部なくなる前に、できるだけ早目に補給してください。

● **エンジンオイルの点検**

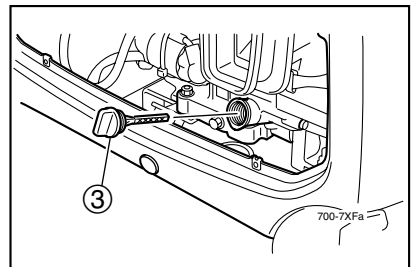
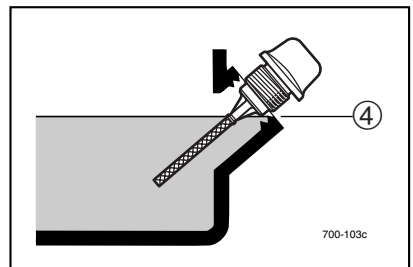
1. ボルト①を取り外します。
2. リアカバー②の指示部を外側に引いて、リアカバーを取り外します。

要　点

リアカバーは図で示されている爪部によって固定されています。

3. オイルプラグキャップ③を外し、エンジンオイルがオイル基準面④まであるか点検します。
エンジンオイルが基準面より少ない場合は、エンジンオイルを注入口の口元まで給油します。

⚠注　意

エンジンオイルを規定量以上に給油しないでください。
エンジン不調になるおそれがあります。

要　点

- エンジンオイルの給油は発電機本体を水平状態で行なってください。
- こぼれたエンジンオイルは必ずふきとってください。
- エンジンオイルを規定量入れないとエンジンは始動しません。

● **その他の点検**

「定期点検表」（P29）を参照してください。

定期点検表

対象部品	点検項目	始業点検	6ヶ月毎又は100時間運転毎	12ヶ月毎又は300時間運転毎
エンジンオイル	オイル量の点検	○		
	交換		○（*1）	
燃料	量、漏れ	○		
フューエルパイプ	亀裂、損傷の確認	○		
スパークプラグ	点検、清掃		○	
エアクリーナ	点検、清掃		○（*2）	
マフラーワイヤネット	清掃、損傷の確認		○	
スパークアレスタ	清掃、損傷の確認		○	
燃料タンクストレーナ	清掃			○
ブリーザパイプ	亀裂、損傷の確認			○
シリンダーヘッド部	カーボンの除去			★
バルブクリアランス	点検			★
エンジン回転	調整			★
本体各部	各部の緩み確認			★
前日の作業で異状が認められた箇所		○		

*1……初回は1ヶ月目又は20時間運転時に実施してください。

*2……ほこりの多い場所で作業した場合は、定期点検時期より早めに点検を行なってください。

★……この項目は整備に関する専門知識、工具、技術を必要としますので、ヤマハ発電機販売店またはサービス店へお申し付けください。

定期運転・定期交換

格納中であっても発電機を緊急で使用することが予測される場合は、ここに示す定期運転、定期交換を行なって緊急時に備えてください。

- **定期運転**

  1ヶ月に1度定期的に発電機を運転（約10分位）し、電気器具を接続して運転状態を点検してください。

- **定期交換**

  燃料（自動車用レギュラーガソリン）を満タンの状態で保管する場合は、燃料の変質による始動不良を防止するため3ヶ月に1回は燃料タンク内の燃料を交換してください。

⚠警　告

- **本書での指示なき作業等を行なうときにも、必ずエンジンを停止してください。**
- **お客様自身が整備作業についてあまり熟知されていない場合は、ヤマハ発電機販売店またはサービス店へ作業を依頼してください。**

交換部品は、必ず純正部品、または指定されたものを使ってください。

定期点検・整備ご相談窓口のご案内

ヤマハ商品の定期点検および整備に関しましては、ヤマハ発電機販売店またはサービス店にご遠慮無くご用命ください。

【ご注意】

1. 整備はヤマハ発電機販売店またはサービス店へのお持込みを原則とします。
2. 現地整備の場合には別途出張料金を申し受けます。
3. 土曜、日曜、祝日、年末年始、その他夏期等休業させていただく場合があります。
4. 区画整理、電話局の新増設などにより、住所、電話番号が変更になることがありますのであらかじめご了承ください。

● エンジンオイルの交換

⚠警　告

油脂類の廃液は法令（公害防止条例）で適切な処理を行なうことが義務づけられていますのでヤマハ発電機販売店またはサービス店へご相談ください。

1. エンジンを始動し2～3分暖気運転します。
2. エンジンスイッチキーをSTOP（停止）の位置にしてエンジンを停止します。

⚠警　告

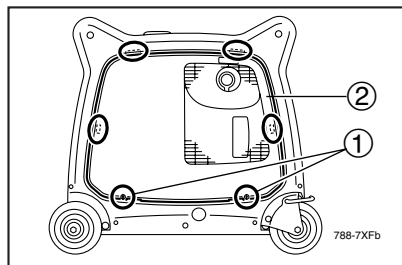
エンジン停止直後は、エンジンオイルが熱くなっていますので、すぐに排出しないでください。

要　　点

● エンジンオイルの給油は発電機本体を水平状態で行なってください。
● こぼれたエンジンオイルは必ずふき取ってください。
● 排出する燃料を受け取る容器を用意してください。

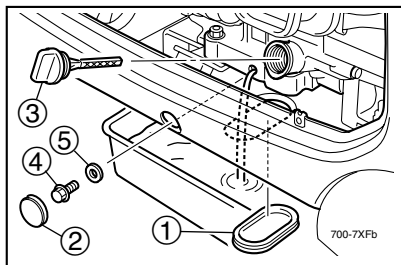
3. ボルト①を取り外し、リアカバー②の指示部を外側に引いて、リアカバーを取り外します。

要　　点

リアカバーは図で示されている爪部によって固定されています。

点検・調整（つづき）

4. ゴムカバー①、ゴムプラグ②、オイルプラグキャップ③を取り外します。
5. オイルドレンボルト④、ガスケット⑤を取り外し、エンジンオイルを抜きます。

要　点

初回は20時間目、その後は100時間毎に交換します。

6. オイルドレンボルトとガスケットを締めつけます。
7. 新しいエンジンオイルを注入口の口元まで給油します。

   オイル量

   　1.3L

   使用オイル

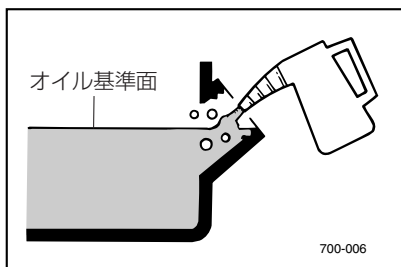
   　4サイクルガソリンエンジンオイル

   　　API分類SE級以上

   　　SAE 10W-30または10W-40

   　　（推奨オイル：ヤマハエフェロベーシック）
8. オイルプラグキャップを締め付けます。
9. ゴムカバー、ゴムプラグを取り付けます。
10. リアカバーを取り付けて、ボルトを締め付けます。

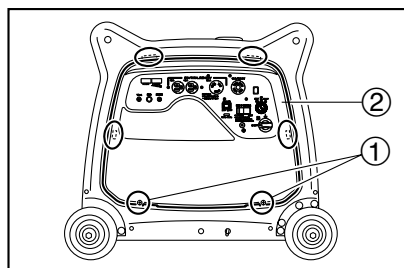
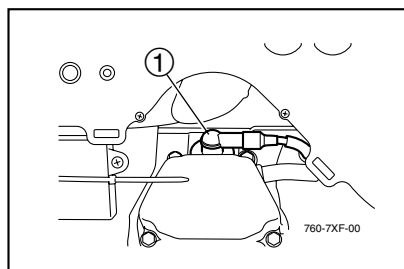
要　点

リアカバーの爪部を本体の溝にはめ込みます。

● **スパークプラグの点検と清掃**

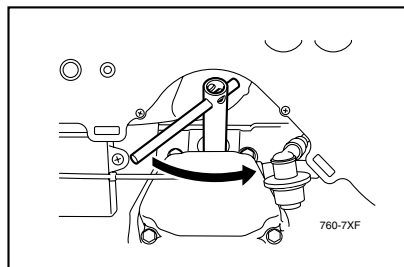
スパークプラグは、点検が簡単な重要部品です。スパークプラグは、徐々に劣化しますので、定期的に外して点検を行なってください。

1. エンジンスイッチキーをSTOP（停止）の位置にしてエンジンを停止します。
2. ボルト①を取り外し、フロントカバー②の指示部を外側に引いて、フロントカバーを取り外します。

要　点

フロントカバーは図で示されている爪部によって固定されています。

3. スパークプラグキャップ①を取り外します。

4. スパークプラグレンチを使って、スパークプラグを外します。

▲警　告

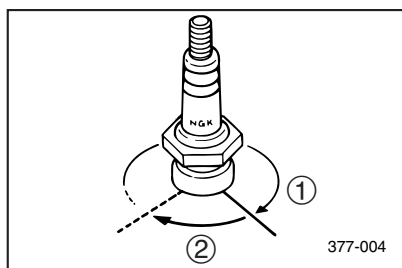
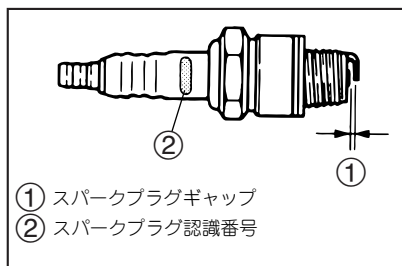
スパークプラグの脱着の際は、碍子を損傷させないように注意してください。
碍子が損傷すると、ショートして火災等を誘発するおそれがあります。

5. スパークプラグの焼け具合を見ます。
   通常はキツネ色に焼けますが黒くくすぶっていたり白く焼けていたときはエアクリーナを点検します。
6. 電極付近の汚れ（カーボン）を落とします。
7. 電極隙間を点検します。
   スパークプラグ
   NGK　BPR4ES
   スパークプラグギャップ
   0.7～0.8㎜
8. スパークプラグを締め付けます。

要　　点

スパークプラグを取り付ける際にトルクレンチが準備できないときは、指でいっぱいに締め込んだ後①、プラグレンチを使って1／4～1／2回転②更に締め込んでください。
できるだけ早い時期に、トルクレンチを使って正規の値（15.0 N・m～25.0 N・m）で締めてください。

9. スパークプラグキャップを取り付けます。
10. フロントカバーを取り付けて、ボルトを締め付けます。

要　　点

フロントカバーの爪部を本体の溝にはめ込みます。

● 燃料タンクストレーナの清掃

要　点

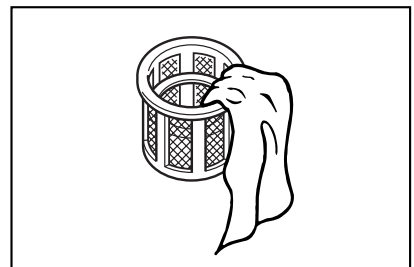
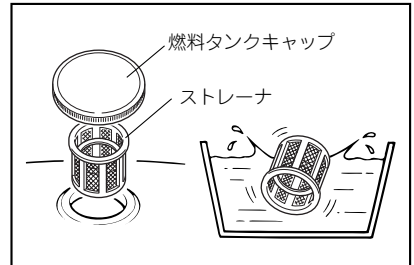
ストレーナが短期間に汚れる場合は、燃料タンク内に汚れが溜まっていることがあります。

1. エンジンスイッチキーをSTOP（停止）にしてエンジンを停止します。
2. 燃料タンクキャップおよびストレーナを取り外します。
3. ガソリンを使ってストレーナを洗浄します。

ストレーナが破損している場合は新品と交換してください。

4. ストレーナを拭いて挿入します。
5. 燃料タンクキャップを取り付けます。

⚠警　告

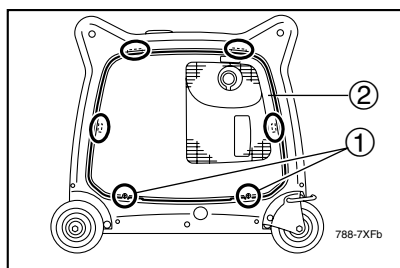
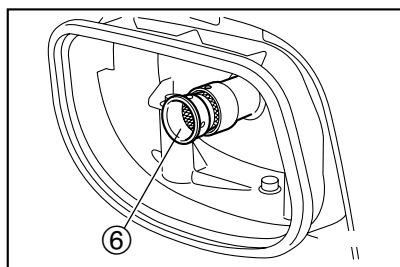
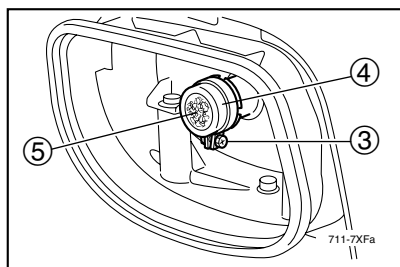
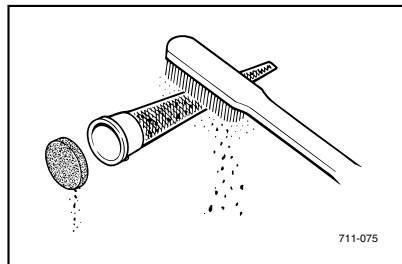
燃料タンクキャップはしっかりと締め付けてください。

● マフラーワイヤネットの清掃

⚠警　告

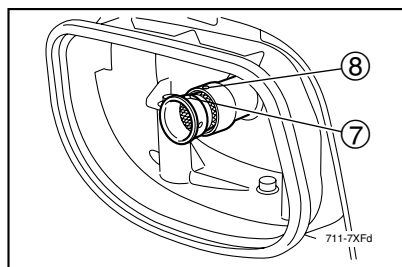
エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっていますので、火傷に注意してください。点検や整備は、十分にエンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが冷えてから行なってください。

1. エンジンスイッチキーをSTOP（停止）の位置にしてエンジンを停止します。
2. ボルト①を取り外し、リアカバー②の指示部を外側に引いて、リアカバーを取り外します。

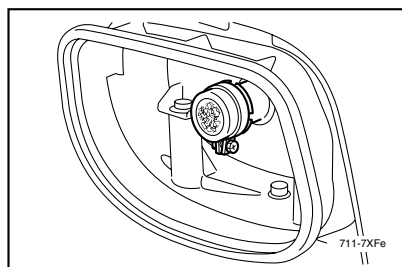
要　　点

リアカバーは図で示されている爪部によって固定されています。

3. スクリュ③を弛めて、マフラーキャップ④、マフラーワイヤネット⑤、スパークアレスター⑥を取り外します。

4. ワイヤブラシを利用して、マフラーワイヤネットとスパークアレスターの汚れを取り除きます。

5. スパークアレスターを取り付けます。

要　点

スパークアレスターの突起部⑦とマフラーパイプの切欠き部⑧の位置を合わせてください。

6. マフラーワイヤネットとマフラーキャップを取り付けます。
7. リアカバーを取り付けて、ボルトを締め付けます。

要　点

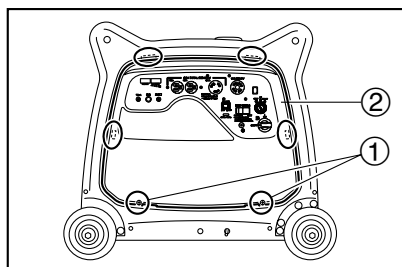
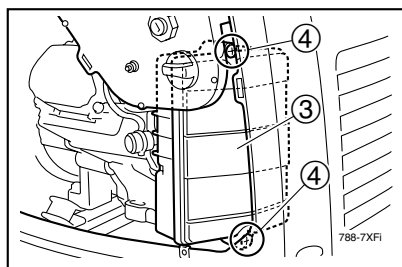
リアカバーの爪部を本体の溝にはめ込みます。

● エアクリーナエレメントの清掃

要　点

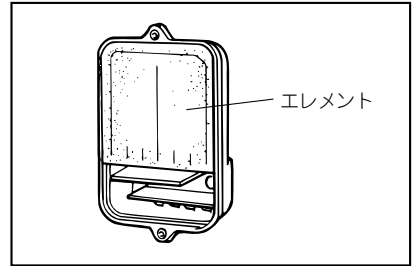
ほこりの多い場所で作業した場合は、定期点検時期より早めに清掃してください。

1. エンジンスイッチキーをSTOP（停止）の位置にしてエンジンを停止します。
2. ボルト①を取り外し、フロントカバー②の指示部を外側に引いて、フロントカバーを取り外します。

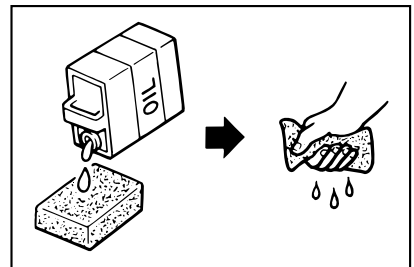
要　点

フロントカバーは図で示されている爪部によって固定されています。

3. エアクリーナカバー③を固定している2カ所の取付けスクリュ④を外します。

4. エアクリーナカバーを外します。
5. エレメントをエアクリーナ本体から外します。
6. エレメントをきれいな白灯油で洗浄します。

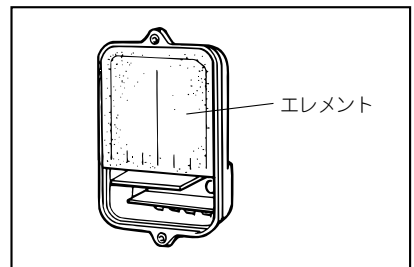
▲警　告

油脂類の廃液は法令（公害防止条例）で適切な処理を行なうことが義務づけられていますのでヤマハ発電機販売店またはサービス店へご相談ください。

7. エレメントをエンジンオイル等にひたし、その後余分なオイルを取り除きます。

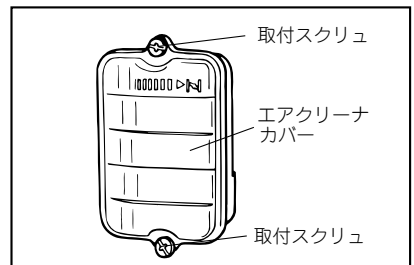
▲注　意

エレメントは絶対にきつく絞らないでください。破れてエンジンが不調になることがあります。

8. エレメントをエアクリーナ本体にはめ込みます。

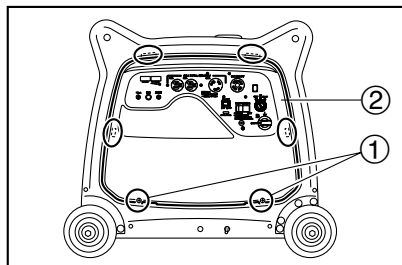
▲注　意

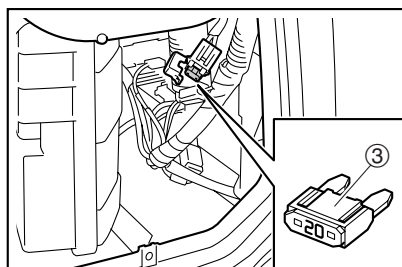
エレメントを取り付けていない状態ではエンジンを絶対に始動させないでください。ピストンやシリンダーの摩耗の原因になります。

9. エアクリーナカバーを元の位置に戻し、2カ所の取付けスクリュで締め付けます。
10. フロントカバーを取り付けて、ボルトで締め付けます。

要　点

フロントカバーの爪部を本体の溝にはめ込みます。

● **ヒューズの交換**

1. エンジンスイッチキーをSTOP（停止）の位置にしてエンジンを停止します。
2. ボルト①を取り外し、フロントカバー②の指示部を外側に引いて、フロントカバーを取り外します。

要　点

フロントカバーは図で示されている爪部によって固定されています。

3. ヒューズ③を外します。

4. 新しいヒューズと交換します。
   容量　20 A

⚠注　意

容量が異なるヒューズやヒューズ以外の針金、銀紙等は使用しないでください。

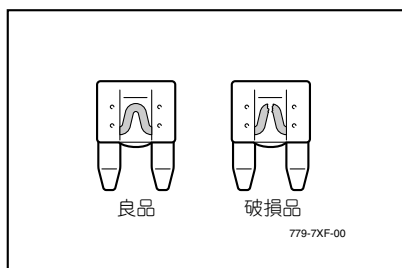
要　点

ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、ヤマハ発電機販売店またはサービス店へ相談してください。

5. フロントカバーを取り付けて、ボルトで締め付けます。

要　点

フロントカバーの爪部を本体の溝にはめ込みます。

● **バッテリの点検**

この発電機のバッテリはVRLA（制御弁式）バッテリです。バッテリ液の補充、点検は不要です。バッテリに異状があるときは、ヤマハ発電機販売店またはサービス店で点検・整備を受けてください。

⚠警　告

バッテリは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- **火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。**
- **補充電は風通しのよいところで行なってください。**
- **ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。**
- **落下などの強い衝撃を加えないでください。**
- **バッテリ液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。**
- **子供の手の届くところに置かないでください。**

応急手当

- **万一、バッテリ液が皮膚、衣服などについたときはすぐに多量の水で洗い流してください。**
- **目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。**

● **バッテリの充電**

バッテリの放電が疑われる場合は、直ちにヤマハ発電機販売店またはサービス店でバッテリの充電をおこなってください。

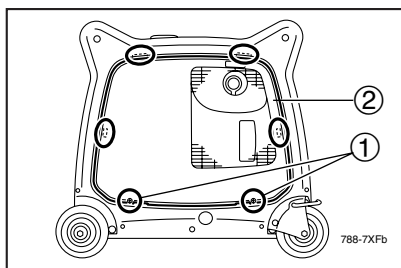
⚠注　意

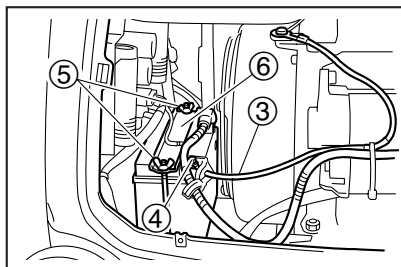
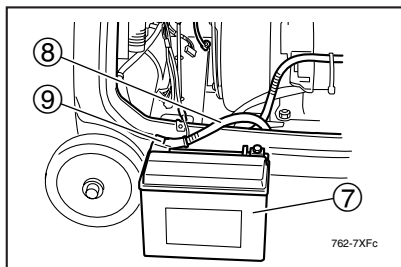
補充電には、密閉式バッテリ専用充電器を使用してください。くわしくはヤマハ発電機販売店またはサービス店にご相談ください。

● **バッテリの取り外し、取り付け**

1. エンジンスイッチキーをSTOP（停止）の位置にしてエンジンを停止します。
2. ボルト①を取り外し、リアカバー②の指示部を外側に引いて、リアカバーを取り外します。

要　　点

リアカバーは図で示されている爪部によって固定されています。

3. ⊖マイナスリード線③（黒色）をマイナス端子④から取り外し、ウィングナット⑤、バッテリプレート⑥を取り外します。
4. バッテリ⑦を取り出し、⊕プラスリード線⑧（赤色）をプラス端子⑨から取り外します。
5. 取り付けは、⊕プラスリード線（赤色）をバッテリのプラス端子に接続します。
6. バッテリを元の位置に戻します。
7. バッテリプレートを取り付けて、ウィングナットを締め付けます。
8. ⊖マイナスリード線（黒色）をバッテリのマイナス端子に接続します。
9. リアカバーを取り付けて、ボルトで締め付けます。

要　　点

リアカバーの爪部を本体の溝にはめ込みます。

故障診断

故障は行き届いた点検整備により未然に防ぐことができます。故障の多くは取り扱いの不慣れや不十分な点検に起因しています。故障が生じたときはヤマハ発電機販売店またはサービス店にご相談ください。

下記には最も考えられる故障を選びその想定される原因を列記しました。故障診断が不安なときは、できるだけそのままの状態でヤマハ発電機販売店またはサービス店に連絡し専門技術者にご相談ください。

● **エンジンが始動しない**

1. 燃料系統（燃焼室に燃料が供給されていない）
   - 燃料タンクが空になっている................燃料（自動車用レギュラーガソリン）を補給する。
   - 燃料パイプが目詰まりしている............燃料パイプを清掃する。
またはヤマハ発電機販売店・サービス店に相談する。
   - 燃料コックに異物が混入している........燃料コックを清掃する。
またはヤマハ発電機販売店・サービス店に相談する。
   - キャブレタが目詰まりしている............キャブレタを清掃する。
またはヤマハ発電機販売店・サービス店に相談する。
2. 電気系統（火花不足）
   - スパークプラグが汚れている................スパークプラグを乾燥させて清掃する。
   - スパークプラグにカーボンが
付着している..カーボンを除去する。
   - 点火系統が不良......................................ヤマハ発電機販売店またはサービス店に相談する。
   - セルモータが回転しにくい....................バッテリの容量不足、ヤマハ発電機販売店
またはサービス店に相談する。
3. 圧縮系統（圧縮不足、洩れ）......................ヤマハ発電機販売店またはサービス店に相談する。
4. 潤滑系統（オイル不足）
   - セルモータを作動させるとオイル
警告ランプが点滅する...........................エンジンオイルを補給する。

● **電気が出ない**

- 交流過電流保護装置が作動している.....エンジンスイッチキーをSTOP（停止）の
位置にしてエンジンを停止し、その後
ON（運転）の位置にする。

運搬

発電機を自動車・トラック等の車両で運搬する場合は、次の項目を守ってください。

⚠警　告

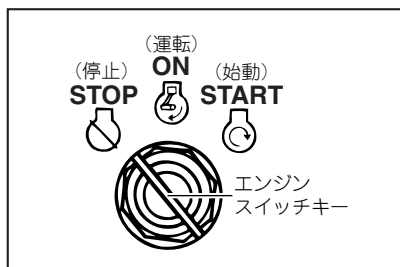
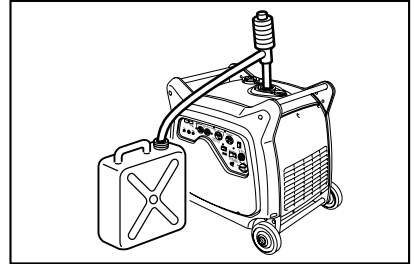
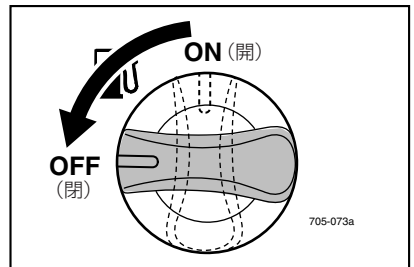
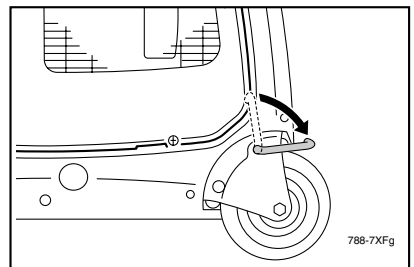
- **振動、衝撃等で燃料タンクの燃料（自動車用レギュラーガソリン）がこぼれるおそれがありますので、燃料タンクに燃料を給油したまま運搬しないでください。**
- **燃料が気化して引火するおそれがありますので、発電機を車内やトランク等に積載したまま、長い時間直射日光の当たる場所に放置しないでください。**
- **火災のおそれがありますので、予備の燃料は消防法に適合した鉄製の携帯タンクに保管してください。**

⚠注　意

発電機の上に重い物を置かないでください。

1. エンジンスイッチキーをSTOP（停止）の位置にします。

2. 燃料タンク内の燃料を抜きます。

⚠警　告

- **燃料タンクキャップは確実に締めてください。**
- **こぼれた燃料はただちに布きれ等で完全にふきとってください。**

3. 燃料コックをOFF（閉）にします。

4. キャスタ（車輪）のロックレバーをロック（固定）側にします。

5. 発電機をロープ等で確実に固定します。

要　　点

発電機が移動、転倒、落下、破損等しないような位置に積載してください。

保管・格納

● 保管

使用後、または定期運転後次回の使用が 3 ヶ月以降になる場合は、１～13の作業を行なって保管し、次に使用するときに備えてください。

▲注　意

燃料（自動車用レギュラーガソリン）が自然劣化してエンジンの始動が困難になる場合がありますので燃料は抜いてください。

要　　点

排出する燃料を受け取る容器を用意してください。

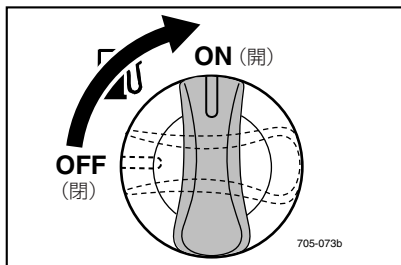
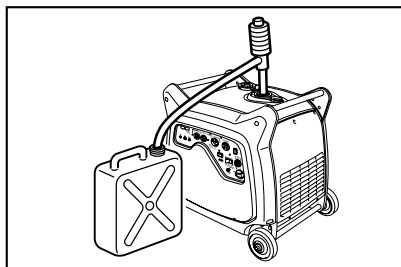
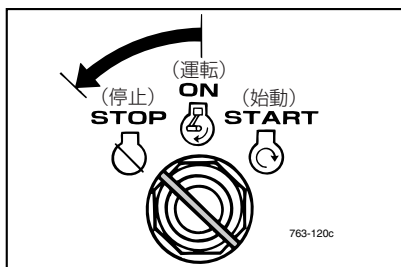
1. エンジンスイッチキーをSTOP（停止）の位置にしてエンジンを停止します。
2. 燃料タンク内の燃料を抜きます。

▲警　告

- **燃料タンクキャップは確実に締め付けてください。**
- **こぼれた燃料はただちに布きれ等で完全にふきとってください。**

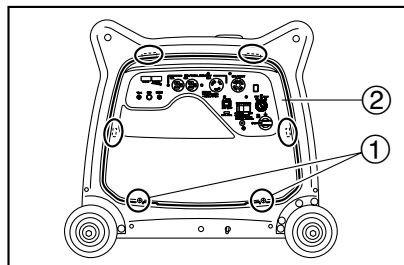
3. エンジンスイッチキーをON（運転）の位置にします。
4. 燃料コックをOFF（閉）からON（開）にします。
5. エンジンを始動します。
   約20分後にエンジンは「ガス欠状態」で停止します。

要　　点

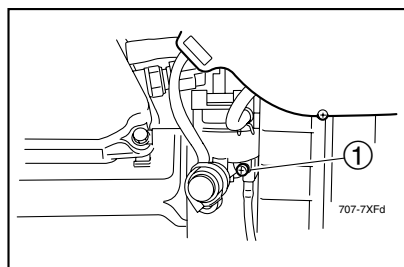
- 電気器具は接続しないでください。(無負荷運転)
- 燃料タンク内の燃料残量によって「ガス欠状態」になるまでの時間は変わります。

保管・格納（つづき）

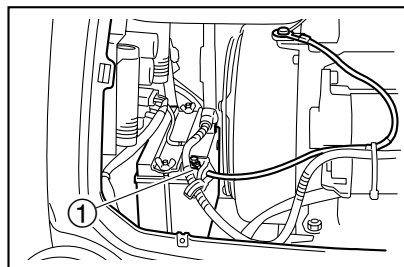
6. ボルト①を取り外し、フロントカバー②の指示部を外側に引いて、フロントカバーを取り外します。

要　点

フロントカバーは図で示されている爪部によって固定されています。

7. キャブレタのドレンスクリュ①をドライバ⊕で弛めて燃料を抜きます。

▲警　告

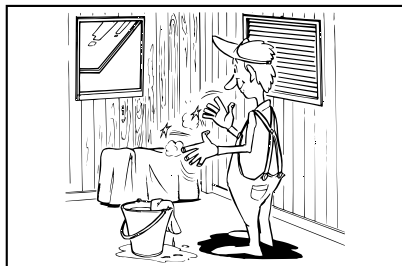
こぼれた燃料はただちに布きれ等で完全にふきとってください。

要　点

キャブレタ内のガソリンを抜かずに長期間放置すると、ガソリンが変質しエンジンがかからなくなる場合があります。

8. ドレンスクリュを締め付けます。
9. エンジンスイッチキーをSTOP（停止）の位置、燃料コックをOFF（閉）にします。
10. バッテリの⊖マイナスリード線①をバッテリターミナルから取り外します。
11. フロントカバーを取り付けて、ボルトを締め付けます。
12. 弛みがあれば各ボルト・ナットを増し締めします。

保管・格納（つづき）

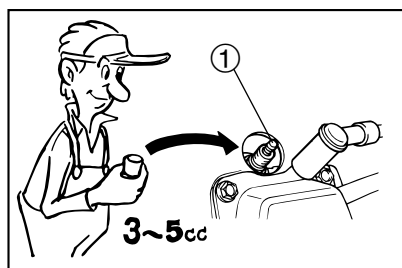
13. 室内で湿気が少なく換気のよい場所に保管します。

⚠注　意

火災のおそれあり、発電機にカバーを掛ける場合は、エンジン部、マフラー部が充分に冷えてから行なってください。

● **格納**

長期間にわたって使用しない場合は、次のことを行なって格納し、次に使用する機会に備えてください。

1. ●保管の1～12の作業を行ないます。

2. スパークプラグ①をはずしプラグ孔よりエンジンオイルを3～5cc給油します。
3. エンジンスイッチキーをSTART（始動）の位置にし、エンジンを数秒間（5秒以内）回してください。

4. 各部をきれいに清掃して防錆処理をします。

5. 発電機にカバーを掛け、室内で湿気が少なく換気のよい場所に保管します。

仕様諸元

<table>
<tr><td colspan="3">名　　称</td><td colspan="2">EF5500iSDE</td></tr>
<tr><td colspan="3">形式</td><td colspan="2">多極回転界磁形</td></tr>
<tr><td colspan="3">電圧調整方式</td><td colspan="2">インバータ式</td></tr>
<tr><td colspan="3">励磁方式</td><td colspan="2">自己励磁式（磁石式）</td></tr>
<tr><td colspan="3">力率</td><td colspan="2">1.0</td></tr>
<tr><td rowspan="4">発電機</td><td rowspan="4">交流</td><td>定格周波数</td><td colspan="2">50Hz／60Hz</td></tr>
<tr><td>定格出力</td><td colspan="2">5.5kVA</td></tr>
<tr><td>定格電圧</td><td>100V</td><td>200V</td></tr>
<tr><td>定格電流</td><td>55.0A（コンセント合計）</td><td>27.5A</td></tr>
<tr><td rowspan="5">装備</td><td colspan="2">駆動方式</td><td colspan="2">エンジン直結</td></tr>
<tr><td colspan="2">交流コンセント</td><td colspan="2">4</td></tr>
<tr><td colspan="2">交流過電流保護装置</td><td colspan="2">電子式</td></tr>
<tr><td colspan="2">直流コンセント</td><td colspan="2">無</td></tr>
<tr><td colspan="2">直流過電流保護装置</td><td colspan="2">無</td></tr>
<tr><td rowspan="14">エンジン</td><td colspan="2">エンジン種類</td><td colspan="2">空冷 4 サイクルガソリンエンジン</td></tr>
<tr><td colspan="2">調速機形式</td><td colspan="2">電子制御式</td></tr>
<tr><td colspan="2">冷却方式</td><td colspan="2">強制空冷</td></tr>
<tr><td colspan="2">点火方式</td><td colspan="2">T.C.I. 点火</td></tr>
<tr><td colspan="2">スパークプラグ</td><td colspan="2">NGK・BPR4ES</td></tr>
<tr><td colspan="2">プラグギャップ</td><td colspan="2">0.7～0.8mm</td></tr>
<tr><td colspan="2">エアクリーナ方式</td><td colspan="2">半湿式（ウレタンフォーム）</td></tr>
<tr><td colspan="2">総排気量</td><td colspan="2">357mℓ（357㎤）</td></tr>
<tr><td colspan="2">使用燃料</td><td colspan="2">無鉛ガソリン（自動車用レギュラーガソリン）</td></tr>
<tr><td colspan="2">潤滑方式</td><td colspan="2">強制飛沫式</td></tr>
<tr><td colspan="2">使用潤滑油</td><td colspan="2">API分類SE級以上エンジンオイル
（SAE 10W-30または10W-40）</td></tr>
<tr><td colspan="2">使用潤滑油容量</td><td colspan="2">1.3ℓ</td></tr>
<tr><td colspan="2">始動方式</td><td colspan="2">セルモータ式</td></tr>
<tr><td colspan="3">燃料タンク容量（赤レベル）</td><td colspan="2">17.0ℓ</td></tr>
<tr><td colspan="3">定格連続運転時間（赤レベル）</td><td colspan="2">約5.0時間</td></tr>
<tr><td colspan="3">1/4負荷連続運転時間
（赤レベル）</td><td colspan="2">約13.3時間</td></tr>
<tr><td colspan="3">乾燥重量</td><td colspan="2">91kg</td></tr>
<tr><td colspan="3">全長×全幅×全高</td><td colspan="2">780×616×692mm</td></tr>
<tr><td colspan="3">騒音レベル（7m）</td><td colspan="2">64dB(A)</td></tr>
<tr><td colspan="3">バッテリメーカー/型式</td><td colspan="2">GSユアサ／YTX20L-BS</td></tr>
</table>

＊この仕様諸元は改良のため予告なしに変更することがあります。
＊騒音レベルは7m・4方向測定の平均値です。

交流電源回路図

①
②
白
黄
黒/黄
赤/黄
赤/黄 黒/黄
③
④
⑤
赤/白
茶/白
茶
赤
橙 青 緑 桃 黄
黄 緑 青 橙 桃
黄/白
青/白
青/緑
緑/黄
赤/青
橙 青 緑 茶 黄
黄 茶 緑 青 橙
緑
⑥
赤
茶
⑦
⑧
⑨
⑩
青
赤/黒
⑪
赤/黄
赤
黒
黒/黄
黒/白
⑫
⑬
緑/黄

① ローターアッセンブリ
② メインコイル
③ コントロールユニット
④ インターフェイスユニット
⑤ コントロールユニット
⑥ 出力ランプ
⑦ 電圧選択スイッチ
⑧ 交流コンセント
⑨ アワーメーター／パワーメーター
⑩ 周波数切替スイッチ
⑪ エコノミーアイドルスイッチ
⑫ 過負荷警告ランプ
⑬ アース端子

索引